



リウマチ教室を開催しました

10月20日(木)、院内にてリウマチ教室を開催いたしました。今回は、院長松原司より「リウマチ性疾患と骨粗鬆症」のテーマでお話いたしました。

当日10月20日はちょうど世界骨粗鬆症デーのため、今回は骨粗鬆症についてわかりやすくお話ししました。いかに骨量を保って骨折を防ぐかをポイントに、骨粗鬆症の症状、検査、治療、予防の観点から説明しました。特に、関節リウマチの患者様はその約半数が骨粗鬆症と診断されているデータがあります。関節リウマチ自体や運動不足に加え、ステロイドの長期服用も原因となりやすい傾向にあります。関節リウマチ同様骨粗鬆症も、早期診断、早期治療が大切です。定期的な検査を心がけ、いつまでも歩けるよう骨を守りましょう！

骨粗鬆症の症状

- ✓以前より背が低くなった 
- ✓背中や腰が曲がっている 
- ✓背中や腰に痛みを感じる 

骨粗鬆症の薬について

薬の種類	内服	注射
骨吸収と骨形成のバランスを崩れる薬		
カルシウム製剤		
活性型ビタミンD製剤	内服: エディロール、アルファロールなど	
ビスホスホネート	内服: ポ/テオ、ベネット、アクトネルなど	注射: ポンビバ(1回/月)
骨吸収を増やす薬		
SERM(サム)	内服: ビピアント、エビスタなど	
女性ホルモン		
抗RANKL(ランクル)モノクローナル抗体		注射: プラリア(1回/6ヶ月)
骨形成を増やす薬		
副甲状腺ホルモン製剤		注射: テリボン(1回/1週間、1年半程度)、フォソオ(1回/日、2年程度)など

